

大年神系譜と弥生農耕

日=靈ヒ 精の本来は雨乞いの意

日賣→比賣、毘賣、娘 買メは呉音

日子→毘古 彦の文字は顔に文身した成人男子の意

南方系ないし海人系の太陽崇拜が取り込まれたものか

彦は呉越系が祖にある人物の尊称であろう

味鉛高彦根命も同様、天之稚彦と容姿が似ていること

合わせれば大国主命の子ではありえないだろう

稻作がこれらのグループに含まれるなら、年代的に素盞鳴尊よりはるかに古く、その系譜ではありえない。

書紀1書では宇迦之御魂神を伊弉諾伊弉冉神の子とするが、それが自然とみえる。

それらの地を通過して渡来した素盞鳴尊に、それらの人々を素盞鳴尊の子としたのが記紀系譜であろう。

春秋～戦国の中国戦争避難民の運んだ
黄河系農耕文化を代表させる神名とみる
粟、稗、大豆など 畑作文化
山東半島の育て祀られた郷邪八神
の四時主(歳、季節)からか

大年神

大国御魂神は弥生初期の
文化を代表させた列島系の
後世における創作神名か

韓神は箕子朝鮮系譜の自称と
みえる
韓禪は半島を代表させた
後世における創作神名か

曾富理神は素盞鳴尊～初期出雲
時代の神名か。伽耶での神名とみる。
白日別→筑紫
これも素盞鳴尊～初期出雲時代か

大阪の聖神社縁起の信太首
は百濟帰化族
聖神は百濟滅亡後に登場の
創作神名であろう

初期の水稻の伝達者か(神産集日神系譜か)
春秋戦国の呉越全盛 BC700～BC400頃

イナ、イヌの呉音で読む場合に
稲イネの原義である可能性大
長江系の晚生種の稲を示すとみる

古越語で稲はineである。
(左伝で呉の稲を依緩イネと音表記している)
また、塩、肉(シシ)、土(ニ)、竈(クド)も
古越語に一致している。

半島北部では戦国から秦にかけて稲作痕跡はなく、
粟、稗、大豆である。

半島北部に稲作が登場するのは欣岩里遺跡と
松菊里遺跡の少し後である。

従って半島北部から水稻が南下伝播した
可能性はほとんどない。

水稻は長江下流域～江蘇省沿岸から黄海を直接横断して
半島南西岸に達し、ここから松菊里と北九州へ広まっている
可能性が高い。

米マイは江蘇州～長江河口の方言
戦国～秦時代に北から圧迫された呉越文化が
南西諸島を北上したと考えられる

沖縄北部以南がマイ、奄美より北ではイネ
高床式建物の南方形と九州形の接点も奄美である

半島や東南アジアにおける言葉と合わせて検査を要す

稻作がこれらのグループに含まれるなら、年代的に素盞鳴尊よりはるかに古く、その系譜ではありえない。

書紀1書では宇迦之御魂神を伊弉諾伊弉冉神の子とするが、それが自然とみえる。

それらの地を通過して渡来した素盞鳴尊に、それらの人々を素盞鳴尊の子としたのが記紀系譜であろう。

このグループはBC700～BC200頃の
文化を代表させる神名群とみる

九州 ヤマト
遠賀川中流域とみる
遠賀川土器

以上母

神活須毘神の女伊怒比賣

以上母

香用比賣

以上母

香山戸臣神

以上母